

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL. 7

開催地：山江村万江地区

平成 19 年 5 月 29 日（火）、山江村万江地区において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。山江自然休養村管理センターにて開催された同報告会には、約 20 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

村内	17 名
村外	4 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本高水 7, 000 トン/秒と計画高水 4, 000 トン/秒との差の 3, 000 トン/秒はどうするのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道で安全に流し得る流量を検討した結果、人吉地点における計画高水流量を 4,000 m³/s と設定しました。そのため、同地点の基本高水のピーク流量 7,000m³/s と計画高水流量 4,000m³/s との差分 3,000m³/s については、ダムや遊水地等による洪水調節で対応することになります。 <p>具体の洪水調節施設については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 森林保全である程度の流量調整ができていると思うが、今では鹿の食害などがあり、林業だけでは対応できなくなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本高水のピーク流量等の治水計画は、森林の存在を前提としていることから、治水上、森林の保全は重要であると認識しています。 <p>鹿の食害等により森林の状況が著しく変化すれば、森林の洪水緩和機能に影響を与える可能性もあることから、関係機関等が連携して、森林の保全に努めていく必要があると考えています。</p> <p>河川事業においても、間伐材の利用を促進するなど、出来ることから取り組んでいきたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 流域の森林面積はもう増えないだろう。昔の山は腐葉土も多くてふわふわし水を貯めていたと聞いたことがある。混交林ならばもっと水を貯められるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本高水のピーク流量等の治水計画は森林の存在を前提としていることから、治水上、河川管理者としても森林の保全は重要であると認識しています。 <p>球磨川流域においては、経年的に森林の状態（樹種の割合等）の変化はあるものの、昭和 20 年代以降、降雨の流出形態に大きな変化は見られないことから、現在の流出形態を前提として基本高水のピーク流量を算出することが妥当であると考えています。</p> <p>なお、今後、森林の保水力に関する新たな知見により、基本高水のピーク流量算出の前提条件が著しく異なった場合には、必要に応じこれを見直すこととしています。</p>
<p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 球磨川流域では毎年浸水被害を受ける住民がいる。国土交通省は河川管理者として住民の生命・財産を守る義務がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ご心配をおかけしまして申し訳ございません。球磨川の治水対策ができるだけ速やかに実施できるよう努力していきたいと考え

<ul style="list-style-type: none"> ・万江川の竹やぶが昨年の水害で流れ、一年近く川に引っかかったままである。 	<p>ています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告会后、ご発言いただいた方、万江川及び山田川を管理している熊本県の担当者と一緒に現地を確認させていただきました。 <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度に撤去する予定です。
<ul style="list-style-type: none"> ・万江川上流の砂防ダムが砂利で満杯となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会后、ご発言いただいた方、万江川を管理している熊本県の担当者と一緒に現地を確認させていただきました。 <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内には多数の堆砂掘削に対する要望箇所があり、緊急性等を考慮しながら、優先順位の高いところから進めていきたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・これ以上川底が上がらないように帯工もしくはブロックの設置をお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会后にご発言いただいた方、万江川を管理している熊本県の担当者と一緒に現地を確認させていただきました。 <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご意見をいただいた現場では、農業用水の取水が行われていますので、そのことを踏まえ、どのような対応が可能か、検討したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・万江川では50年に1度大きな水害が発生している（昭和19年と平成5年）。 ・砂防ダムは何故造るのか。砂防ダムに貯まった土砂を撤去して有効利用すると川への土砂流出が無くなり、川に土砂が堆積せず、魚の住処が守れるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貴重な経験談をありがとうございます。 ・砂防えん堤は、荒廃した溪流の上流で土砂の生産や流出が激しいところに造られます。土石流災害防止のため、上流から流れてくる土砂を砂防えん堤で止めて下流への土砂流出を軽減する効果のほか、溪流に溜まっている不安定土砂の流出を防ぎます。砂防えん堤に土砂が堆積することで、砂防えん堤上流の川の勾配が緩やかになり、一気に土砂が下流に流出するのを防ぎ、砂防えん堤上流の河岸侵食の防止、下流河道に土砂が堆積することによる流下阻害防止などの効果があります。
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・せっかくお金をかけてサイクリングロードをつくったのだから、PRなどもっと利用面でも力を入れるべき。 ・球磨川沿いで地区によって桜を植えたりしているが、地区と行政で一体として実施している箇所がどれくらいあるのか。どこを重点的に進めていくのかが分からない。 ・万江川への降り口が少ない。階段やスロープを造り、みんなが気軽に川に親しめるような川づくりをして欲しい。 ・河川改修では、護岸や河床をしっかりと固めて、魚や虫の生息場 	<ul style="list-style-type: none"> ・サイクリングロードは昨年、全線開通したところであり、活用については地元市町村等が協議会を設置して検討されていると聞いています。国としても地元市町村の取り組みに協力していきたいと考えています。 ・球磨川の河川管理者である国が、地元市町村や住民の方と一緒に良好な水辺空間づくりを進めていくことは、とても重要なことだと考えています。今後、そのような取り組みがより一層推進されるよう、努めてまいります。 ・報告会后、ご発言いただいた方や万江川を管理している熊本県と一緒に現地を確認させていただきました。 ・ご意見のとおり、過去の河川工事により、生物の生息環境に影響

<p>所を無くしてきた。今から復元するのは大変だが、やっていかなければいけない。みんなで知恵を出して取り組んでいきたい。</p>	<p>響を与えた箇所もあることから、近年では生物の生息環境にも十分配慮して、河川工事を実施しているところです。今後も関係機関や住民の方々と連携して、生物の生息環境の保全に努めていきたいと考えています。</p>
<p>【その他】</p>	
<ul style="list-style-type: none"> 人吉層を固めて強くすることはできないものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ご指摘の対策を施そうとする場合、人吉層の上に堆積している砂利・礫を除去する必要があるものと思われます。そのようにして仮に人吉層を何らかの方法で固めてしまったとしても、例えば、アユなどの魚類の生息に必要な砂利・礫が河床に戻らない可能性があります。従って、魚類等の生物への影響は大きいものと考えられます。
<ul style="list-style-type: none"> 雨が降ったらすぐに川が濁る。昔はそのようなことは無かった。源流域の対策をどう考えていくのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 山腹崩壊に伴う河川内への大量の土砂流出による濁水の発生を軽減するためには、河川管理者として砂防事業・治山事業と連携を図るなど関係機関と一体となり、総合的な取り組みを推進していく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 川砂利を生コン材料に使うことはできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 球磨川では、平成14年に有明海・八代海再生特別措置法が施行されたことを受け、八代海等への砂利供給への影響を考慮し、国が管理する区間においては砂利採取を禁止しているところです。従って、生コン材料等への利用は難しい状況ですので、ご理解をいただければと存じます。
<ul style="list-style-type: none"> 万江川には農業用水の堰があるが、昔ながらの石ころでできている。固定堰や可動堰を造ってもらえないか。 発電水利権の許可期限を機に万江川の水利権を返して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> いただいたご意見については、万江川を管理している熊本県にお伝えしました。 水利権については、詳細を確認したうえで、改めて説明させていただきます。
<ul style="list-style-type: none"> 万江川は地域の大事な観光資源であり、非常に魅力のある川で地域としても親しみを持っている。しかし、近年は水量が減り、少しの雨でも川が濁る。川底が土砂で2m以上上がっている。これらは全て鹿害や手入れ不足などで上流の森林が荒れたことによるものである。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の荒廃による土砂流出等により、河川の濁りが発生している点をご指摘のとおりと思います。 また、森林には洪水緩和機能があり、治水面でも森林は非常に重要であることから、国土交通省としても関係機関と情報を共有し、連携して対策を進めていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 山がはげたのは昭和30～40年代であり、今の方が山に自然はいっぱいある。しかし、森林の下草を鹿が食べてしまったことで、すぐに土砂が流出するようになった。川の濁りは鹿の害。 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の荒廃による土砂流出等により河川の濁りが発生している点をご指摘のとおりと思います。 また、森林には洪水緩和機能があり、治水面でも森林は非常に重要であることから、国土交通省としても関係機関と情報を共有し、連携して対策を進めていく必要があると考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 発電用の荒瀬ダムだが、恩恵は全く無いという声があるのが不思議。荒瀬ダムを撤去して下流の八代市は大丈夫なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 荒瀬ダムは発電専用のダムですが、管理者である熊本県が撤去に向けた検討を行っています。撤去に伴う下流への影響についてご質問があったことは、熊本県にお伝えしました。
<ul style="list-style-type: none"> 昭和40年水害の際には、市房ダムの放流によって大災害となったと聞いたが本当か。 	<ul style="list-style-type: none"> 昭和40年水害時の市房ダムの操作について、管理者である熊本県の当時の記録によると洪水調節機能を果たしていると判断されますが、その一方、地元の方々からご指摘のような疑問の声

が多くあるのも事実です。そのことから、球磨川沿いの市町村で開催した報告会では、市房ダムを管理している熊本県にも同席いただき、質問があった場合にご説明いただいたところです。山江村の報告会では熊本県は同席されませんでした。山江村でも市房ダムについてご質問があったことは、熊本県にお伝えしました。

・工事の現場でも看板を立てる、クリーンアップ作戦を行う等の取り組みが必要ではないか。空き缶やゴミなどが工事現場に散乱しているなど環境が良くない。業者が取り組めるような環境づくりが必要であり、それが少しでもきれいで住みやすい地域をつくる。

・これまでも、工事現場内の環境美化につきましては、様々な取り組みを進めてきたところですが、いただいたご意見は、今後の工事等の実施に活かしていきたいと思えます。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。